

質の向上WG(H28.2.10)

被災自治体の職員としての 東日本大震災

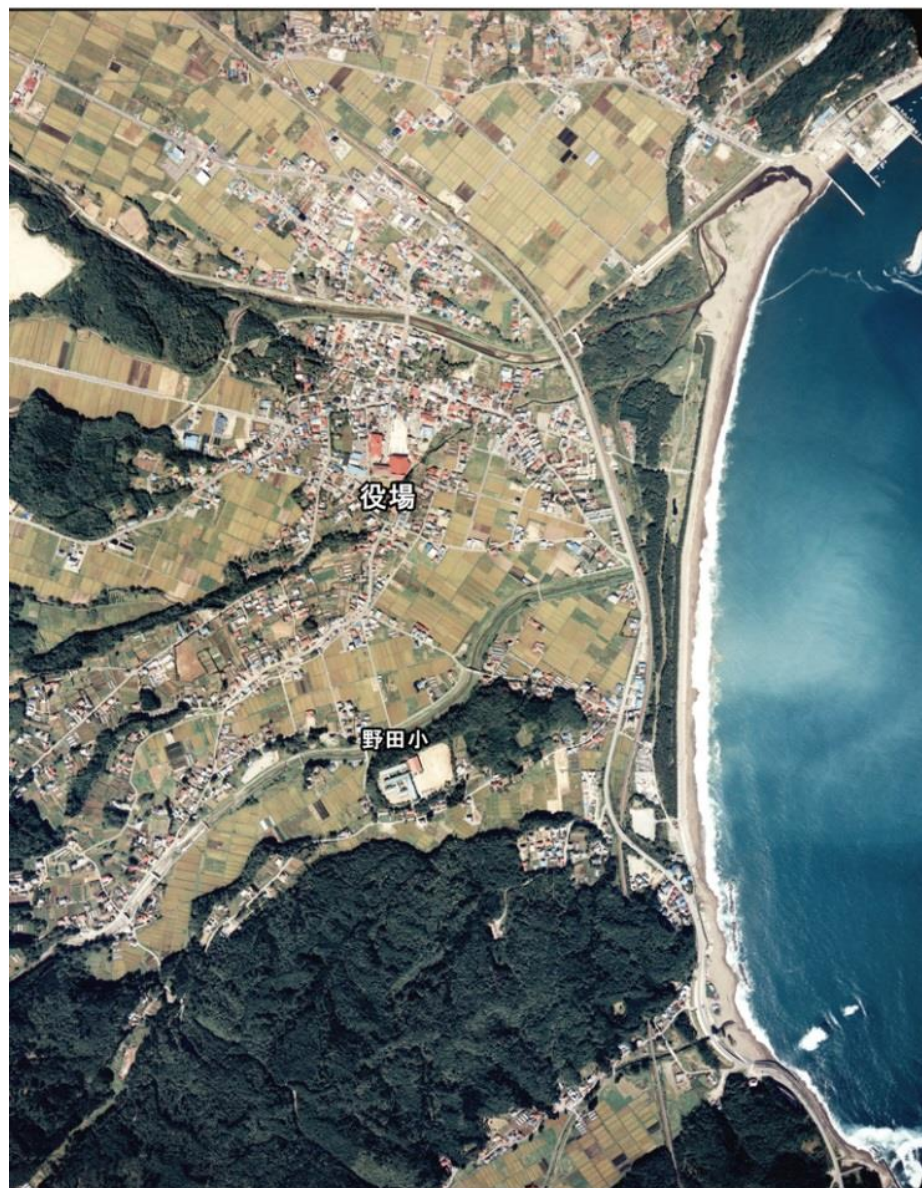
岩手県野田村
総務課

本日お話しする内容

- ① 野田村の被災状況
- ② 震災後の保健活動
- ③ 被災により感じたこと

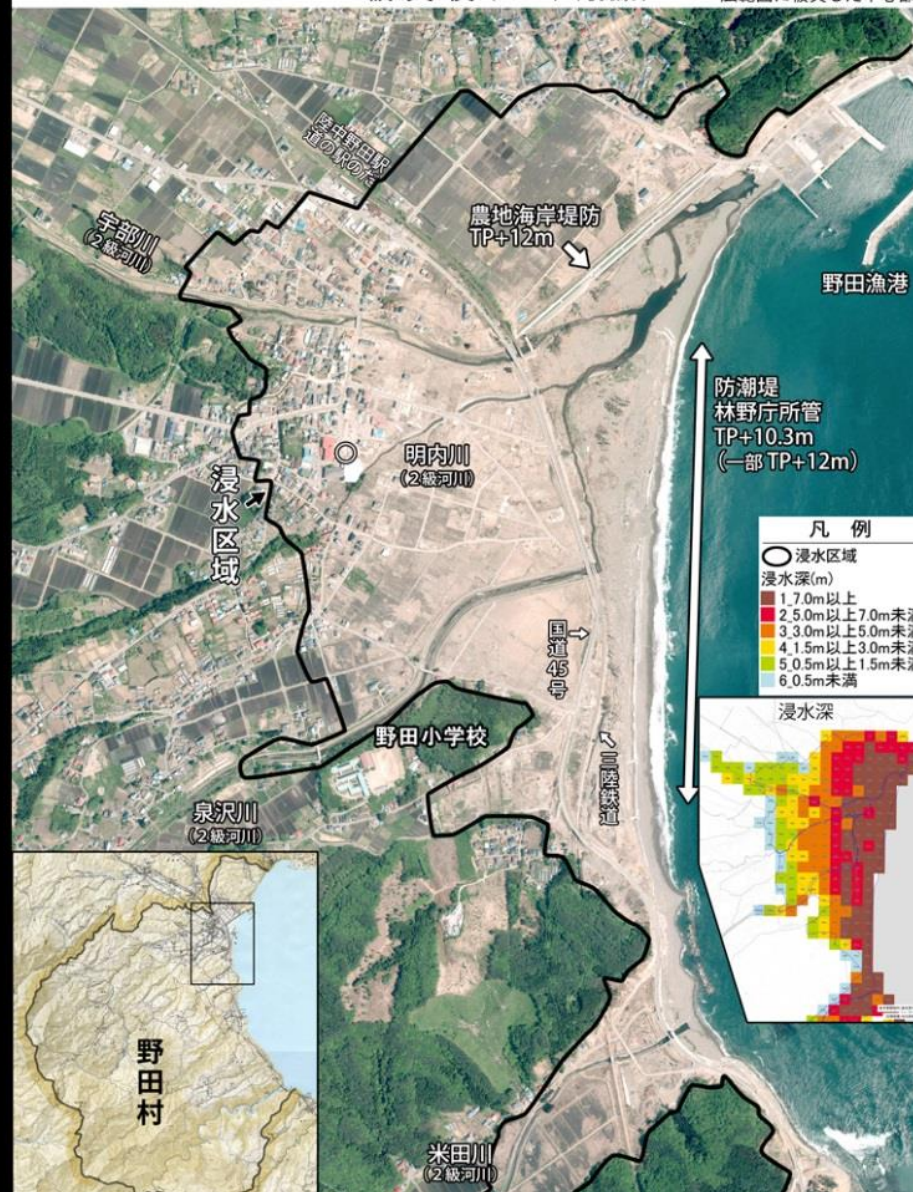
野田村の被災状況

被災前 (1995年撮影)



被災後 (2011年7月撮影)

広範囲に被災した中心部





被災前、上空から撮影した野田村中心部

東側に太平洋に面した3.5km続く十府ヶ浦海岸、高さ12mの防波堤の内側に松の防潮林が広がり、南北に走る三陸鉄道、国道45号線を挟み、西側に市街地と田畑が広がる

中心部の被災状況 (H23.4.6撮影)

3/28日に行方不明者の捜索が全て終了。

がれきの撤去が急ピッチで進み、かつての街並みの面影が無くなっている。

犠牲者

村民 28人
村外 9人
計 37人

住宅の被害

全壊 311戸
大規模半壊 136戸
半壊 32戸
一部損壊 35戸
計 514戸

※震災当時の人口
4,849人

※震災当時の世帯数
1,674世帯

野田漁港（県）

宇部川

本町地区
(22戸被災)

役場

旭町地区
(116戸被災/全壊)

前田小路地区
(69戸被災)

下泉沢地区
(36戸被災)

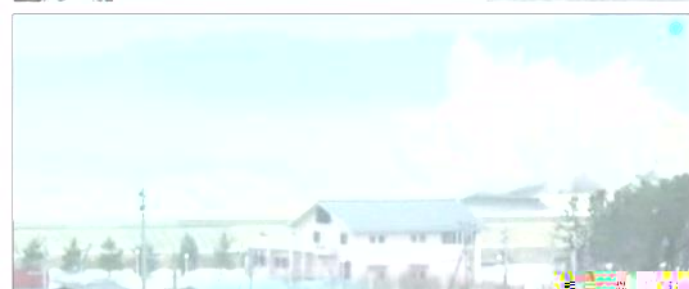
浸水面積 246.9ha

津波の最高到達点 37.8m（米田地区）

最多避難者数 912人（震災直後）

防潮堤に襲いかかる津波（前浜地区）

3月11日 15:35



防潮堤を襲った中心部に残った建物

堤防を越波する様子（新山地区の農地海岸堤防 TP+12m）

3.11 15:36



震災後（現況）



破壊された防潮堤（林野庁所管／TP+10.3m、一部+12m）



なぎ倒された海岸沿いの防潮林
以前は、海が見えないほど松の木が立ち並んでいた…

流出した防潮林が国道を遮断

水門施設も損壊



震災直後の中心部／役場前の様子 (H23.3.12撮影)

海岸沿いの家屋が役場まで押し流されていた



震災直後の中心部／野田村生涯学習センター(図書館) (H23.3.14撮影)

ガレキの中を懸命な捜索が続く



現在



現在



被害状況等

最大約18mの津波来襲、最高遡上到達点 37.8m

(1) 死者数 … 37人
(村民 28人 村外 9人)

(2) 行方不明者数 … 0人

(3) 住家被害 … 515戸

※内訳

全壊	大規模半壊	半壊	一部損壊
311戸	136戸	32戸	36戸

(4) 避難者数 … 約940人/11か所(ピーク時)

※ 震災当時の人口4,849人 世帯数1,674世帯

ライフライン被害

- 電 気 村内全域停電 → 概ね復旧 3/19
- 電 話 村内全域不通 → // 4/2
- 水 道 約1,200世帯断水 → // 3/30
- 下水道 約750世帯使用不可
→ すべての地区の復旧が 4/4

避難所設置及び避難状況

避難所の名称	開設期間	実人員	延人員
ことぶき荘デイサービスセンター	3/11～3/28	11	118
国民宿舎 えぼし荘	5/31～6/29	3	68
福祉避難所		14	186
中平公民館	3/12～5/16	26	692
米田公民館	3/11～7/3	47	2,063
中沢公民館	3/13～4/12	12	312
海蔵院	3/11～5/16	132	3,781
野田小学校	3/11～7/3	130	5,072
野田中学校	3/11～5/31	205	4,954
久慈工業高校	3/11～5/15	195	3,518
旧新山保育所	3/11～3/25	11	71
第2分団屯所	3/11～3/30	29	164
役場、総合センター	3/11～7/3	40	3,128
国民宿舎 えぼし荘	3/11～7/3	114	6,309
避難所		941	30,064

仮設住宅設置・入居者数等調

応急仮設 住宅名	入居 開始日	建設 戸数	入居開始当初		28. 1. 26時点	
			世帯数	入居者数	世帯数	入居者数
野田中学校	23. 5. 14	128	112	320	51	134
泉沢地区	23. 7. 2	39	28	74	10	30
米田地区	23. 7. 2	18	13	52	2	3
下安家地区	23. 7. 2	10	5	21	0	0
門前小路地区	23. 7. 2	18	14	37	8	17
		213	172	504	71	184



野田中学校 校庭 平成28年1月現在

震災後の対策

- 堤防 →TP+14m（引き波で倒壊しないように堤防の裏法面の勾配を緩やかに＝粘り強い構造）
避難する時間を少しでも多く確保する
 - ※ 自分の命は自分で守る。とにかく避難することを最優先に！
- 新たな堤防の新設
盛土を施し、その区間を危険区域に設定し将来にわたって、人が住めない地域帯をつくった
- 役場に衛星携帯電話を設置、消防団にトランシーバーを配備
- 消防団15分前ルール
津波到着予想時間の15分前には、消防団も避難

- 指定避難所（小・中学校）にキーボックスを設置
- 特設公衆電話を公共施設に設置

e t c

保健医療機関の被害

- おしかわ内科クリニック 全壊流出
- 認知症グループホーム 全壊流出
- 保健センター 全壊





震災後の保健活動

震災後1週目（3/11～17）

- 早急に医療（特に精神科）の支援が必要な方を医療機関につなぐ。
- 保健・医療チームによる避難所巡回の調整と随行（3/13～本格的な巡回開始）
- 救護所開設にむけての調整
3/15～総合運動公園に開設。奈良日赤・久慈医師会・県薬剤師会等の協力）

震災後 2 週目（3/18～24）

- ・ 救護所継続
- ・ 避難所巡回継続（衛生管理・生活環境整備）
- ・ 歯科医師・歯科衛生士の巡回
- ・ 3/24～いわてこころのケアチーム（岩手医大チーム）活動開始
- ・ おしかわ内科クリニック再開にむけての打ち合わせ、各地からの支援

避難所での活動



震災後 3 週目（3/25～31）

- ・ 避難所巡回の継続
- ・ 隣地区の訪問
- ・ 3/27 救護所の閉鎖
- ・ 3/28～おしかわ内科クリニック診療開始
あわせて村内の調剤薬局再開

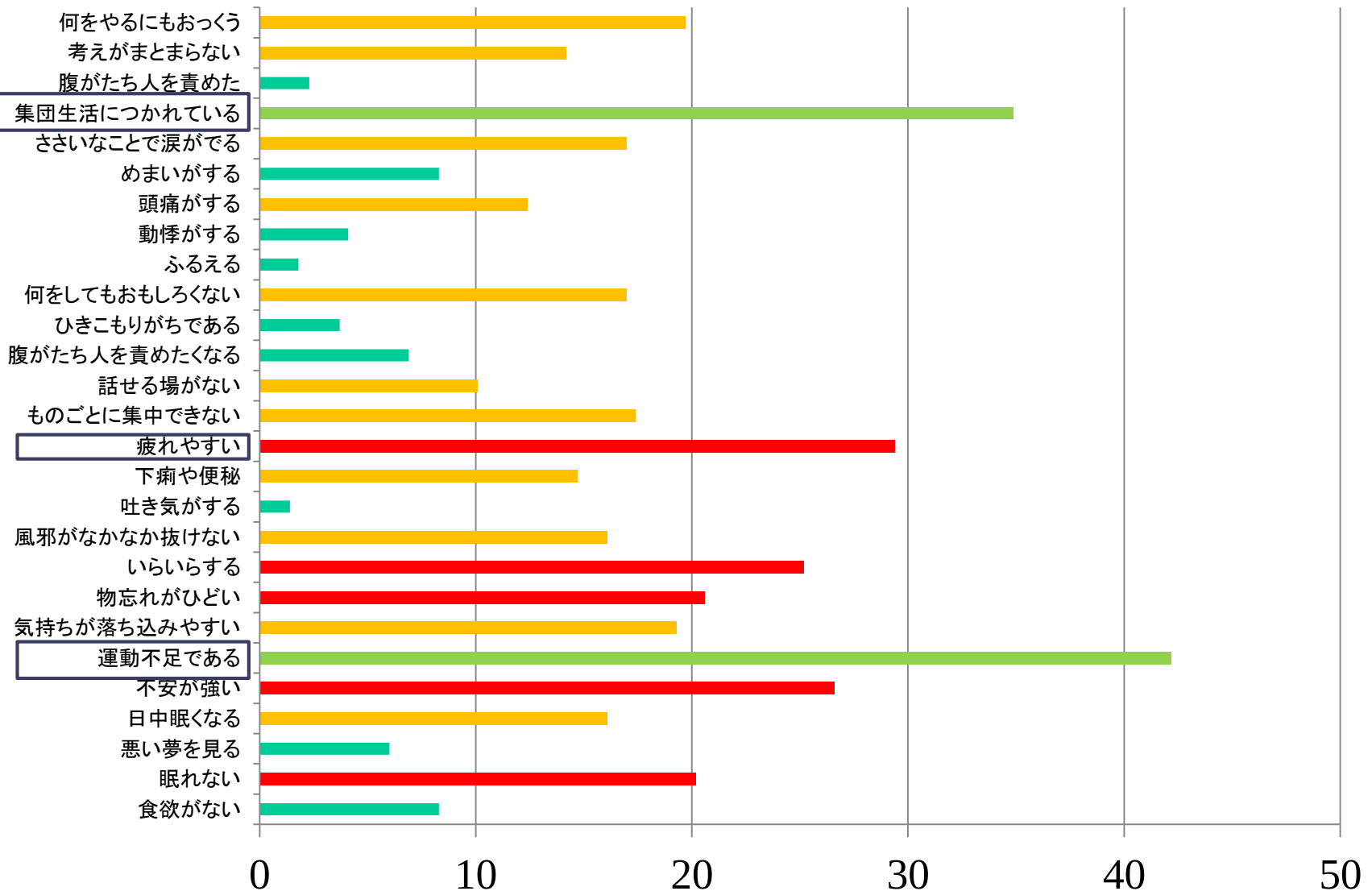
3 月中の従事者数

職 種	延べ人数
医 師	77人
保健師	139人
看護師	68人
栄養士	4 人
ほか コメディカル	66人
計	354人

平成23年4月以降の主な活動

- ・ 避難所巡回、仮設訪問活動（こころのケアチーム・保健師・看護師・栄養士・包括など）
- ・ 仮設集会所での健康相談・サロン活動
（サロン活動のための傾聴ボランティア養成）
- ・ 際地区訪問
- ・ 半壊以上の被災世帯を対象に「健康状態確認シート（調査表）」を配布（年2回実施）

健康状態確認シート (N=218 5月上旬)





野田村オリジナルの「のんちゃん
ネット体操」を実演する保健師ら



野田村

野田村は村民の健康づくりのため、オリジナル体操「のんちゃんネット体操」を完成させた。仮設住宅の住民が運動不足の傾向にあるため、ノウハウを持つ外部の協力者に依頼して考案。各家庭で手軽に取り組めるよう、村内に整備された光ファイバー通信「のんちゃんネット」のテレビ電話画面に体操の動画を配信し、村民に運動のきっかけを提供する。

運動不足にネット体操

テレビ電話で配信へ 仮設住民の健康を支援

体操は▽床やいすに座って行う動き▽ワルツに合わせてワカメの形や浜風を表現▽ホタテ漁のかごや田植えの苗床を持ち上げる動きを採用▽の3種類。同村の村民歌に合わせてつくられ、年齢や体の動きによって選ぶことができる。

テレビ電話は村内全域に整備されており、同ネットでの配信開始は12月20日ごろを予定。画面の中の「くらしの便利情報」のボタンを押すと画面に三つの体操のボタンが表示され、好きな難易度に挑戦できる。

取り組みむきっかけは、村が年2回、被災者を対象に行っているアンケートだった。生活で支障が出ていることの一項目の中で「運動不足」という回答が圧倒的に多かったほ

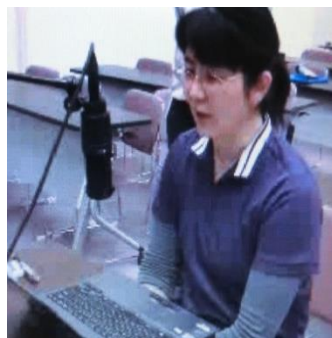
か、集会所などでの催しに参加する人も固定化されるようになり、家で好きな時間に自由にできる運動を提供しようとした。

動画撮影にも村民ボランティアが協力。初めは人前に出ることに恥ずかしさもあったが、被災した仲間役

に立てるならば、村民自らが体操を実演して動画を撮影した。小田祐士村長は「自分ができる範囲の動きが選べていい。配信して終わりではなく、村民に実際に使ってもらい取り組ませたい。ばい」と普及を期待する。



梅田陽子運動指導士(トータルフィット株式会社代表取締役)の指導のもと、村民歌に合わせて村ボランティアが体操を実技し、村保健師が地元言葉で動きを説明します。



— 栄養支援活動の流れ —

A.避難所及び被災世帯の訪問（健康相談、食事環境調査）



B.栄養士会県北支部で避難所巡回開始



C.避難所の食事栄養価計算



D.サプリメント・野菜ジュース等の配布



E.仮設移住後のアンケート及び訪問調査



F.仮設住宅及び被災地域における栄養教育

栄養士会で避難所巡回

- ◎栄養状態の聞き取り
- ◎避難所の状況確認
- ◎食べ方の指導、アドバイス
- ◎サプリメントの提供
- ◎軽体操指導



- ・トイレ、便秘の問題
- ・野菜、魚類の不足
- ・義歯の不具合、口内炎、肌のトラブル
- ・血圧の上昇、貧血
- ・運動不足、不眠、疲れ
- ・食欲不振

避難所での食事栄養価計算



◎5避難所共通

利用者201名 平均年齢57歳

◎その他、2避難所では独自に炊き出し。栄養バランスを考えた食事提供が可能。

4/30 マ



チームとしての活動

関係機関との打ち合わせ

保健師(県・市町村)、ケアチーム(岩手医大)、栄養士、児童相談所



こころのケアチーム



避難所巡回



個別訪問

健康チェック・傾聴・診療・リラクゼーション・生活相談・遺族支援・生活相談・子供のケア



村長さん、眠れてますか？

従事者ケア



アンケートによる健康状態の確認

拠点：こころの健康相談センター4.13開所

ボランティア

お茶っこ飲んで、おしゃべりしてね

サロン

医師・看護師

診療

心理士・保健師・ソーシャルワーカー

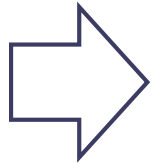
健康チェック
保健相談

専門家が相談に
のります。
お薬も出します

血圧測りま
せんか？

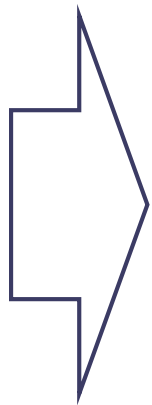
被災により感じたこと

- 一つの自治体では解決できない（人材、物資等）



自治体の枠を超えた連携体制が必要
自治体側の受入窓口の体制強化が必要

- 避難所生活が長期化する場合（ハード以外）



- ・地域コミュニティに配慮
- ・プライバシーに配慮
- ・適切な避難者数での運営
- ・被災者側のニーズに沿った支援
- ・こころケアが重要 など・・

- 応急仮設住宅に移ったから終了ではない



- ・こころのケアはさらに重要に！

減災のために

- 地理的条件を考慮し、市町村で考えられる災害種別の中で、最悪を想定し、それに伴う事前準備と訓練を繰り返すこと
- 自治体は、気象情報をもとに、躊躇することなく、避難勧告等を発令すること



ご清聴ありがとうございました。